

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102186		
法人名	有限会社 エ・アロウ福富		
事業所名	有限会社 エ・アロウ福富		
所在地	岐阜市福富迎田72番地		
自己評価作成日	平成23年10月14日	評価結果市町村受理日	平成24年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102186&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>全館木材を使用し静かな田園地帯に囲まれゆったり穏やかに生活できる環境が整っている。3ヶ月に1回の家族会や季節ごとの外出行事など、多くの家族の方が参加していただき、当事業所に対してご理解、ご協力を得ている。また、隣の駐車場を借りており、車椅子の利用者も安全に散歩ができる環境が整っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家族会が活発であり、年4回の会議が開催されている。利用者の家族は、家族会に積極的に参加し、ホームの行事で行楽地に行くなど、家族の参加がごくあたりまえに得られる取り組みが行われている。家族との繋がりを大切にするホームの方針が日頃から定着し、多くの家族の訪問があり、利用者との関係が保たれている。地域との交流も、大家族世帯のような扱いで地元行事などに参加し、ホームの夏祭りなどには、準備段階から、地域や家族と共に取り組む体制ができています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は廊下の見やすい所に掲示している。職員一人一人が理念と運営方針の書いている表紙を持っており、共有している。又毎朝の夜勤者申し送り時に運営理念、月1回の職員会議のなかで運営方針を全員で唱和し共有している。	「尽くす、心、強調、精進、共生」を理念とし、家庭的な雰囲気の中で、奉仕の心、受容、共生の精神で支援する方針が、日々のあらゆる場面を通じ確認されている。職員会議においても各自の研鑽・気付きなど話し合い、運営理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。学校行事の廃品回収や自治会の清掃活動、防災訓練、夏祭りなどに参加している。	自治会に加入し、地元の行事や清掃活動、廃品回収、防災訓練などに参加し、日常的に交流している。ホームの夏祭りなどは、盛大に開かれ、地元の人々と家族が準備に加わり、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の夏祭りに会場提供し、事業所としてもタコ焼きなどの屋台を出しており、入居者個々としても参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヵ月毎に開催し、事業報告、行事報告に対する評価や家族等からの意見を聞き、次回の行事やサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、自治会長、民生委員、行政、地域包括支援センター、家族会などが参加している。会議では、運営報告に次いで、行事計画や職員の良い対応の仕方について意見が交わされ、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政の担当者が出席され情報交換を行っている。又会議以外にも行政の介護保険制度改正の動きなどの情報や助言等指導を受けている。	日頃から連携を密にし、困難事例、法改正など指導を受けたり、情報の交換をしている。スプリンクラーなど設置に向けての助言を受けるなど、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用前に家族と話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。又声掛けにも拘束力のないように日頃から心がけている。	どんな行為が身体拘束に値するのかなど、マニュアルや外部研修の報告を基に、研修が行われている。利用者の外出などには、希望を聞き、気持ちを大切に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、職員会議において話し合ったり、職員の言動について、その都度個々に注意し話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	NPO法人きずなの会へ後見人制度の必要な人には紹介している。また、入居されている方がいるのでその都度きずなの会より資料提供していただき、情報交換するなど協力を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接を行い家族、利用者に対しては不安、疑問等伺いながら契約、解約の際には十分な説明を行い、契約書を家族と施設に一部ずつ持ち納得してもらっている。又加算について、家族会で説明をし、書面状にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の利用者会議や3ヵ月ごとに開催される家族会で、いろいろな意見や要望などを聞き参考にしながら運営に反映させている。又、毎月の請求書送付の際にカレンダーを同封し、行事等をお知らせしている。	ホームは、利用者の思いや意向を把握するため、月1回の利用者会議を開いている。家族会も年4回開催され、気軽に発言ができ、行事の提案には、家族会の協力が得られ、様々なことが家族と共に行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、1ヵ月に1回の職員会議の時、また年2回の親睦会を行い職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映している。	代表者は、月例会議で職員から意見を聞いている。また、年に2回の親睦会でも職員から意見を聞く機会を設けている。向上心とやりがいの持てる職場づくりが話し合われ、運営に反映している。	今後とも、不満や苦情など、言い難い面にも配慮した取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の勤務に対する取り組む姿勢を大いに評価し、各自が向上心とやりがいをを持って働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格がない職員には、ヘルパー2級の資格取得を実施していただき、又研修については経験や習熟度の段階を考慮し適した職員に受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会合や研修に参加した折に情報交換などを行っている。又、毎月1回、他のグループホームの職員と会議を開き交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたらまず本人に面接をして話を聞いてホーム見学をしていただき、説明をして本人が納得してからサービスを開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に面接を行い、施設側と話し合いの場を設け要望等を聞きながら、説明をし不安のないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネ・職員を交えて本人と家族が望むことを話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話を中心に声掛けを欠かさずしたり、一緒に生活を共にすることによりお互いに理解しながら支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事に参加してもらったり面会の際、日常の記録を見ていただき近況報告をし、相談を受けたり一緒に支えていける関係をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人が自宅や行きつけの病院など馴染みの場へ気軽に行き来できるように支援している。又利用者を訪ねてくる知人などには、気兼ねなく再訪してもらえるよう声掛けをしている。	地元の友人や知人の訪問が多く、利用者と一緒に語り合っている。職員は場所を提供し、心地よく過ごしてもらえるよう雰囲気づくりに努めている。馴染みの美容院や喫茶店などにも気軽に出かけている。遠方への外出は、家族に協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やレクリエーションや行事などの催しには全員に声掛けをし、一人部屋に居ることのないように関わりが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃から何時でも来訪できるよう施設との信頼関係を築き、連絡もできる体制ができている。又、転居先の施設等へも利用者の情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1日、利用者と職員が集まり、どんな暮らしがしたいのか本人の希望を聞きながらそれに添うように努めている。	利用者会議で一人ひとりの思いや意向を把握したり、家族から情報を得るなど、本人の希望に添ったケアに努めている。把握できた情報を、職員は共生する立場で共有し、実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方や生活環境等を資料などで確認しながら把握し、職員全員で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自のケース記録等のなかから把握し、職員一人ひとり心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議において数名ずつケアプランの見直しをして本人・家族の意見も取り入れて介護計画を作成している。又、利用者の変化や家族の要望に応じて臨機応変に見直しをしている。	介護記録や申し送りノートなど、利用者の日々の生活記録を基に、利用者・家族の意見を聞き、詳細に意見交換を行い、介護計画の見直し、介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別記録に記入をし、朝、夕の申し送りをし職員間で情報を共有している。又、毎日の生活のなかで変化があれば、その都度職員間で情報交換をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買い物など利用者一人ひとりの状況に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会の招待者は、地元地域の行事等に参加させていただき交流ができつつある。又、地域のコミュニティセンターを年に数回ホームの行事などに使わせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に協力医院があり月2回の往診時には利用者の状態を説明したり家族とも連絡したりしている。又、通院時は管理者や看護師やケアマネや職員が同行して説明を受けている。他に週1回歯科協力医が往診に来ており利用者の半数近くが受診している。	契約時にかかりつけ医の説明をしており、利用者の半数は協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診を全員が受けている。受診の対応は、原則、家族であるが、通院時には、職員が同行し、医療情報を把握している。また、歯科は週1回の往診があり、希望者が受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職と介護職が密に連絡をとりあい、情報を共有しながら健康管理をしている。又、医療についてはドクターの助言を活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と密に情報交換を行い早期に退院できるように努めている。又、本人や家族との面会を多く持ち連絡を取り合い、入院時の状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とかかりつけの医師と連絡を密にとるようにしている。又、家族会でも代表から事業所の重度化や終末期に向けた方針を説明し共有している。	家族会においても、重度化や終末期の対応について、常日頃から十分に話し合い、事業所でできること・できないことを説明し、共有している。家族の協力体制をどこまで得られるのか等の検討を重ね、医師と連携し対応する方針が確認されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練時1回は地元の消防署に来ていただき全職員対象に指導を受けている。又、利用者の急変や事故発生時に備えて、緊急連絡網やマニュアルをホーム内に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時1回は地元の消防署に来ていただき、指導、助言をお願いし全職員、全入居者が参加している。自治会長を通して運営推進会議への参加を地元の消防士に依頼している。又、地域の避難訓練にも職員、利用者が参加し、交流を深め、協力体制を築きつつある。	年に2回、消防署の協力を得ながら、火災訓練が実施されている。地元からも訓練への参加協力を得られるなど協力体制が整っている。備蓄も確保され、器具の取り扱いや保守点検も行っている。	家族会から、次回の訓練に参加の要望があり、その実現と、防災意識の共有に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室対応であり夏には暖簾を使用してプライバシーは守られている。トイレ介助等カーテンを引いたり、声掛けのしかたなど言葉使いを日頃から意識し、利用者に配慮するようにしている。	利用者が傷つくことの無い対応、言葉使いには細心の気配りを行い、対応することが日常の職員間の共通課題で有り、ホーム全体で、優しく、気配りの行き届いたケアが実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで利用者の言動や表情を確認しながら、本人の思いや希望を引き出せるようにさりげなく声掛けをしている。又、おやつ飲み物などメニューから選択できるように自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者とともに過ごす時間を多くし、一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師にきていただきカットしていただいている。利用者個々に合わせた身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会は本人の好みを聞き入れ食事を作っている。できるだけ自分自身で食事がとれるように支援見守りをしている。	季節の野菜が地元から届けられ、毎日の食材に取り入れている。利用者と、メニューの話題を笑顔で交わしながら調理が行われている。誕生日には、家族を招いて、好みの食事を楽しんでいる。また、職員は毎日同じテーブルで同じ食事をしながら、自身で食事がとれるように見守り支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた食事形態を作り、量を調節し、カロリー計算をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けをし、義歯の清掃やうがいなど利用者の状態に合わせた口腔ケアをしている。又、必要に応じ訪問歯科の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を作り時間をみながら声掛けや介助をして失敗が少なくなるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の人には看護師と相談し、主治医より薬を出してもらい服用することもあるが消化の良い食べ物の工夫をしたり体操をしたり体を動かして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴を実施し、入浴順は順送りになるようにしている。檜の湯船であり、全体が木造りで、ゆっくり入浴できるよう支援している。その他、利用者の状態に応じ週3回以外の日にもシャワー浴をしている。	広い檜の浴槽は、木の香りが漂い、温泉気分を味わうことができる。週3回の入浴を行い、利用者の希望を優先し、介助方法など職員間で共有した支援が実施されている。状態に応じた介助も、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室対応であり自由に自分らしく気兼ねなく過ごすことができている。又、起床時間・就寝時間も本人のペースを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出る薬の説明書をよく読み理解する。服薬の支援は一人ずつ仕分けをして間違いのないようにし、個人記録へチェックをし確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花を生けるのが好きな人、野菜作りや裁縫など一人ひとりの生活歴を活かした張り合いのある生活が送れるように支援している。又、音楽療法士さんの月1回の来訪を楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は車椅子の利用者も含めた散歩に行き、近隣者と挨拶をかわし花をもらうなど交流をしている。又食材の買い物に戸外に出かけるよう支援したり、外出行事などに年に数回行い家族と協力して全員が出かけられるようにしている。	利用者の健康状態に合わせ、地元を散歩したり、日光浴をしている。食材の買出しには、利用者も職員と一緒に出かけ、遠方への行事には、家族会の協力を得て、全員で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで管理しており家族面会時に現金出納帳にて預り金の確認してもらい了承を得ている。金銭管理ができる人は少数であるが買い物や理容代など自分でやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要請や家族からの電話があれば取次などできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材がふんだんに使われており、お天気の良い暖かい日はバルコニーに出て花や野菜を眺めながら季節感を感じている。又、廊下には利用者同士と一緒に助け合い作った塗り絵や貼り絵などがあり季節によって変わっている。	大きな窓から眺める景色は、部屋の中で季節感を味わうことができる。壁や調度品もすべて、木材がふんだんに使われている。季節の花が飾られ、利用者が職員と作り上げた作品が展示され、心地よく暮らせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が自由に集まれる空間を数か所用意し、テレビやカラオケなどもある。冬場はコタツを入れるので暖かく快適に過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた布団や家具を持ってきてもらい居心地よく生活できるように心がけている。又、季節ごとに衣類替えを家族に依頼している。	和室が多く、板張りの壁で、はき出し窓があり、開放的である。天気の良い日には布団を干し、ベランダで日光浴などを楽しむこともある。居室には、家族の写真が飾られ、整理タンスや鏡など使い慣れた家具が持ち込まれている。季節の衣替えは、家族と共に行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の目印になるようなものを設置したり、部屋の入り口に表札をつけ間違えないようにしている。		